

八

加賀とびと観客のどよめき(百万石まつり)



「加賀藩初代藩主・前田利家の金沢城入城を再現した百万石行列。その豪華絢爛の時代絵巻に、街頭に並んだおよそ50万人もの観客が、大きな拍手を送ります。百万石まつりは金沢の行事の中でもひととき華やかなものの一つ。」

かいせつ



加賀とびとは、江戸の町を火災から守るためにつくられた加賀藩雇用大名火消しのことを言います。享保2年(1717年)、將軍徳川吉宗が、藩邸付近の火災時の防火を各藩に命じたことから誕生しました。当時の加賀藩は、江戸大名火消しの中でも勇猛果敢な行動と華麗な装備で知られ、江戸町人の語り草になるほどでした。その心意気を受け継いでいるのが加賀藩の梯子登りです。起源は定かではありませんが、当時の火災現場で重宝した梯子の上で、身軽な動作と熟練の技を要求されたことにあるのでしょうか。梯子登りの伝統は勇ましさの象徴でもあり、出初式や藩主前田利家の金沢入城を再現して6月14日に行なわれる「百万石まつり」で勇壮華麗な妙技を多くの観客に披露しています。特に、百万石まつりでの勇姿は、浮世絵や錦絵にも描かれた加賀藩行列を彷彿させ、見事な技の数々に沿道の観客からは、称賛のどよめきと惜しめない拍手が起こります。